

## クリスマス×キャンプ＝アオハル？

1 趣 旨：新しい仲間との交流を通し、自他ともに知ること繋がりを作り、自分を表現できる場を提供する。

2 日 時：令和元年12月21日（土）13：30～22日（日）15：00

3 場 所：国立淡路青少年交流の家

4 対 象：中学生 定員20名

5 参加者：9名

6 プログラムの内容： <進行は全て国立淡路青少年交流の家ボランティアスタッフ>



### <1日目【12/21（土）】> 13：30～13：45 開会式

企画ボランティアスタッフの進行により、梅津次長の挨拶から始まり、ボランティアスタッフ紹介、職員紹介を実施した。



### 13：45～14：45 はじめまして×ドキドキ

野外炊飯場周辺にてアイスブレイクとして、以下を実施した。

ずっきーが言いました／数集まり／人間ビンゴ／あなたと私／  
拾いものじゃんけん



和気あいあいとした雰囲気の中、自然と会話も生まれ、グループの仲を深める機会となるとともに、これからの活動への弾みになった。

### 14：45～18：30 クッキング×クリスマス

会場を野外炊飯場に移し、野外炊飯を実施した。

2班に分かれ、クリスマスにちなんだ料理として、「ピザ」と「パンケーキ」を作った。生地作りや火おこし、薪割り、食材を切るなどたくさんの工程がある中、各班少人数ではあったが、力を合わせて作業を進めていた。ピザ作りに挑戦するのが初めての参加者も多く、「生地作りが難しい」や「具材をのせるのが楽しい」などの会話も生まれ、終始和やかな雰囲気の中で活動に取り組んでいた。



## 20:00~22:00 テーマ×おしゃべり

夜は作法室にて、テーマ×おしゃべりを実施した。

前半は、2班に分かれて「あなたにとってそれは？」というテーマで、参加者が連想しやすいお題(クリスマス・淡路島・おにぎり・デート・テレビ番組・アイドルなど)が書かれたカードを引き、そのお題についてそれぞれの思いを共有した。簡単なお題だけあって、参加者は滑らかな口調で次々と会話が生まれていた。

後半は、「学校・部活」、「大人・友達」、「自分の好きどころ・自分の変えたいところ」など少し深い内容のお題で2班に分かれて話をした。前半とは違い、深く考え込む姿が見られたり、他人の思いに深く共感したりする参加者もいた。

活動終了後にも、会話を続ける参加者もあり、参加者同士の距離がぐっと縮まるきっかけとなる活動になった。



## <2日目【12/22(日)】>

### 9:00~11:40 ミッション×オリエンテーリング

2日目は、2班に分かれミッション×オリエンテーリングを実施した。

班対抗戦として、マシュマロリバー、カプラタワー、ZOOM、ブラインドスクエアに取り組んだ。2日目ということもあって、自然と自分の意見や思いを発言する参加者が多く、「こんな考えはどう？」や「それいいかも!」、「もう少し考えてみよう!」、「時間いっぱい挑戦しよう!」などの声が多くあがっていた。



### 12:45~14:15 STEP×NEXT

午後は、STEP×NEXTというテーマで2日間のふりかえりを行った。

初めに、個人のふりかえりを行った。2日間の思い出を撮った写真を見返しながら、各プログラムでの活動を思い起こした。その後、班での共有を行った。班員のいいところをカードに記した「いいねカード」を作成し、お互いに交換した。自分では気づかない「いいところ」に気づかされた参加者たちはうれしそうな表情や恥ずかしそうな表情をしていた。



## 14:15~15:00 閉会式

今回の企画に携わったボランティアスタッフ及び職員からあいさつを行った。



### 7 参加者の声

- 色んな人と関わるができる内容ばかりで、楽しめてよかった。
- たくさん考えられてよかった。
- ログハウスでの生活が新鮮でよかった。
- ずっと笑っていて、一緒にいて楽しかった。

### 8 成果と課題

#### ○成果

- ・プログラムに対する参加者の満足度は非常に高かった。企画メンバーとなったボランティアスタッフに対する評価も高く、将来的に淡路交流の家でボランティア活動してみたいという中学生たちの良いモデルとなった。
- ・新しい仲間との交流や繋がりを作ることを目的として行われた当事業は、スマホ依存やネット依存などといった現代の中学生が抱える問題点を捉えた事業となっていた。
- ・1日目最終プログラムの「テーマ×おしゃべり」後にも、参加者たちが自然と集まり、プログラムの続きを熱心に語り合ったり、お互いの学校での出来事を話し合ったりしていたことから、中学生の新たなコミュニティ形成のきっかけに繋がった。
- ・企画運営にあたったボランティアスタッフは、参加者の細かな様子の観察や説明の仕方のポイントなどは理解できていた。

#### ○課題

- ・募集定員を大きく下回った。
- ・新規参加者の参加が2名にとどまった。
- ・準備段階での計画が遅れ気味になった。
- ・ボランティアスタッフの多くにスキルの偏りがあり、参加者の細かな様子の観察や説明の仕方のポイントなどは理解できているものの、それらスキルを別の事業へ応用させたり、対応させたりする柔軟性に欠ける点がみられた。

#### ○今後、ボランティア自主企画を実施する上での留意点

- ・社会情勢に応じた内容を盛り込むとともに、中学生がおもしろいと思えるような内容の充実を図る。
- ・近隣の教育委員会や中学校と連携を図り、開催時期の調整を行う。
- ・広報範囲の拡大を行うとともに、SNSを活用し効果的な広報活動を実施する。
- ・GoogleカレンダーやGoogleドライブなどを使用し、運営側でのスケジュール調整を計画的に行う。
- ・初参加の中学生や一人でも参加できるよう気軽さや無料送迎バスがあることをアピールする。
- ・ボランティアスタッフがこれまで得てきた知識やスキルを汎用的に用いられるよう、引き続きボランティアスタッフへの指導・助言を行うなど、ボランティアの育成・普及に努める。